

金融市場NOW

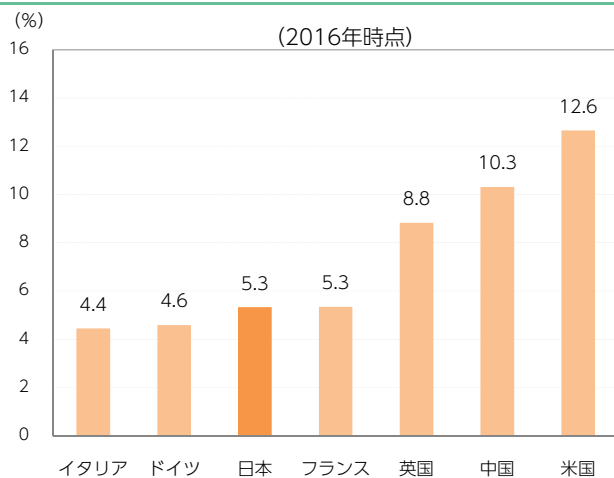
シニア起業家増加

シニア起業家が増加するも、割合は先進国（26カ国）平均を下回る

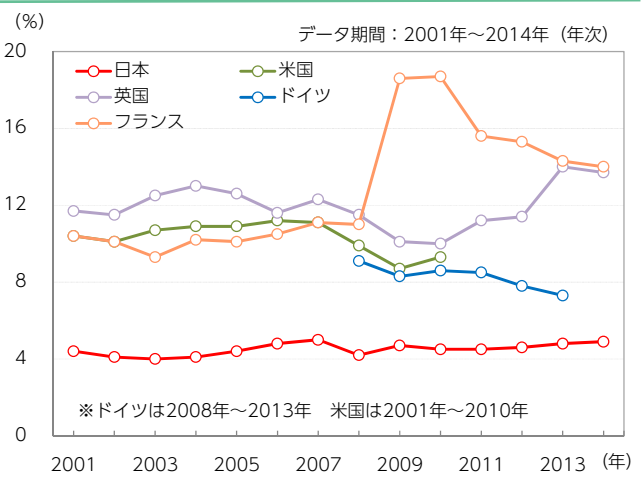
- ▶ 起業を選択するシニアが増加。少子高齢化や年金受給開始年齢の引き上げ、定年制の存在等が要因として指摘されている。
- ▶ 日本のシニア起業率は先進国（26カ国）平均（以下同じ）を下回る。日本経済の活力向上に向け、シニア起業率引き上げのための融資や教育制度の更なる充実等が望まれる。

- 第二の人生として起業を選択するシニアが増加しています。世界の経営学者が実施する「グローバル・アントレプレナーシップ・モニター（GEM）調査」によると、日本のシニア（55～64歳）起業家は約63万人（2015年時点）で、10年前の約37万人から約7割増加しています。日本のシニア起業率（シニア人口に占めるシニア起業家数）は4.0%と10年前より2ポイント改善し、先進国平均の1.1ポイント改善を上回っています。シニアが年金受給開始年齢の引き上げに不安を抱き始めたこと、少子化でシニア労働者に期待が集まっていること、定年制の存在等が要因と見られています。但し、先進国平均の4.6%には届いておらず、順位は18番目の低さに留まっています。
- シニア起業家の増加にも関わらず、日本全体でみた起業の動きは鈍いようです。各国の起業活動の活発さをあらわす指標である「総合起業活動指数（TEA）」（18歳から64歳までの成人人口に占める起業家の割合）（GEM調査）（2016年時点）をみると、イタリアやドイツ等は上回ってはいるものの、61カ国中56番目の低さとなっています（図表1）。
- 少子高齢化の進展で生産労働人口が減少し、日本の活力が低下することが懸念されています。また、若者を中心とする開業意欲の低下も問題視されているようです。中小企業白書によると日本の開業率（既存事業所数に対する新規成立事業所数）は他の主要国に比べて低水準で推移しており（図表2）、また起業無関心者の割合は2012年時点で77.3%と、米国の22.9%やドイツの30.6%等と比較して高くなっています。
- 若者の開業意欲を高め、また、経験・スキル・人脈等を豊富に持つシニア層に日本経済の活力向上の一翼を担ってもらうため、融資や教育制度、事業につまづいた場合の救済制度の更なる充実等が望まれます。

図表1：総合起業活動指数（TEA）主要国比較



図表2：主要国の開業率



出所：図表1から2はGEM、中小企業庁・厚生労働省データ等を基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会